

平成 25 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月鳥類調査 速報

●実施状況

平成 25 年 5 月 8 日に鳥類調査を実施した。天気は晴、気温 18.0～22.0℃、北～北東の風、風速 2.3～5.5m/s であった。潮回りは大潮で、潮位は 9 時 58 分干潮(29cm)、16 時 30 分満潮(177cm)であった(気象庁東京検潮所)。各地点の状況を下表に示す。

	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻
作業時刻	10:55-11:50	12:40-13:30	9:20-9:55
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	21.0	22.0	18.0
風向	北東	北	北
風速(m)	2.8	2.3	5.5
備考	干潟が広く干出し、水溜りが多くできていた。 ヨシ原でオオヨシキリが多数さえずっていた。	第3台場の砂浜側、護岸近くで船2隻が作業していた。	干潟が広く干出ししていた。

●主な出現種等

	葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻
数が多かった鳥類上位2種	アジサシ(378羽) カワウ(102羽)	カワウ(666羽) アオサギ(35羽)	カワウ(84羽) ユリカモメ(28羽)
その他の鳥類	カルガモ、スズガモ、カンムリカイツブリ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、コチドリ、シロチドリ、ミヤコドリ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ダイシャクシギ、トウネン、ユリカモメ、オオセグロカモメ、コアジサシ、ミサゴ	カルガモ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、キアシシギ、キョウジョシギ、ユリカモメ、ウミネコ	カルガモ、アオサギ、コサギ、コチドリ、シロチドリ、チュウシャクシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメ
備考	<ul style="list-style-type: none"> 干潟では、カワウ、アジサシ類が休息。 干潟では、サギ類、シギ・チドリ類が採餌。 干潟の汀線際でミヤコドリが採餌。 重要種として、13種を確認(スズガモ、カンムリカイツブリ、ダイサギ、コサギ、コチドリ、シロチドリ、ミヤコドリ、オオソリハシシギ、チュウシャクシギ、ダイシャクシギ、トウネン、コアジサシ、ミサゴ)。 	<ul style="list-style-type: none"> 第六台場や鳥の島の樹林では、600羽以上のカワウを確認。巣に座っているカワウの個体数は少ない。 カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギは樹上で繁殖しており、雛や幼鳥を確認。 岩礁や護岸構造物でキョウジョシギ、キアシシギが休息。 重要種として、4種を確認(ダイサギ、コサギ、キアシシギ、キョウジョシギ)。 	<ul style="list-style-type: none"> カワウ、ユリカモメは干潟で休息。 シギ・チドリ類が干潟や護岸構造物上で採餌。 重要種として、7種を確認(コサギ、コチドリ、シロチドリ、チュウシャクシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギ)。

●出現種と個体数

No.	目名	科名	種名	調査時期 5月			重要種 選定基準			
				葛西人工渚	お台場海浜公園	森ヶ崎の鼻	文化財 保護法	種の 保存法	環境省RL 2012鳥類	東京都RL 2010(区)
1	カモ	カモ	カルガモ	5	7	8				
2			スズガモ	4						*
3	カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	3						*
4	カツオドリ	ウ	カワウ	102	666	84				
5	ペリカン	サギ	ゴイサギ		1					
6			アオサギ	8	35	1				
7			ダイサギ	1	6					VU
8			コサギ	2	4	4				VU
9	チドリ	チドリ	コチドリ	1		1				VU
10			シロチドリ	8		5			VU	VU
11		ミヤコドリ	ミヤコドリ	26						EN
12		シギ	オオソリハシシギ	1					VU	EN
13			チュウシャクシギ	2		1				VU
14			ダイシャクシギ	1						CR
15			キアシシギ		5	1				VU
16			イソシギ			2				VU
17			キョウジョシギ		4	1				VU
18			トウネン	1						NT
19		カモメ	ユリカモメ	2	2	28				
20			ウミネコ		2	1				
21			セグロカモメ			1				
22			オオセグロカモメ	2		1				
			大型カモメ	1						
23			コアジサシ	42				国際	VU	EN
24			アジサシ	378						
25	タカ	ミサゴ	ミサゴ	1					NT	EN
確認 種数	6目	9科	25種	19種※	10種	14種	0種	1種	4種	16種
合計個体数				591	732	139				

和名、種の配列は、日本鳥学会(目録編集委員会)(編)(2012)『日本鳥類目録改訂第7版』日本鳥学会に準拠した。

※:大型カモメに分類されるセグロカモメ、オオセグロカモメが確認されているので「大型カモメ」は確認種数に数えない。

種の保存法 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において指定されたもの

国際:国際希少野生動物

環境省RL 環境省(2012)報道発表資料『第4次レッドリストの公表について(お知らせ)』において選定されたもの

VU:絶滅危惧II類 絶滅の危険が増大している種

NT:絶滅危惧I類 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種

東京都RL 東京都環境局(2010)「東京都の保護上重要な野生生物種(地域名)」の区部において選定されたもの

CR:絶滅危惧IA類 ごく近い将来における野生での絶滅の危険が極めて高いもの

EN:絶滅危惧IB類 IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

VU:絶滅危惧II類 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの

NT:準絶滅危惧 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの

*:留意種 現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、留意が必要と考えられるもの

前回の調査(平成 25 年 2 月 26 日)と比べ、冬鳥として越冬していたカモ類、カイツブリ類、オオバン、カモメ類およびカワウは減少した。サギ類は種数、個体数共に増加、シギ・チドリ類は種数が増えた。夏鳥として砂礫地で繁殖するコアジサシ、北方の繁殖地へ移動中のアジサシの個体数が増加した。

昨年度の 5 月の調査結果(参考文献 1)と比べると、シギ・チドリ類の種数、個体数が減少した。昨年、平成 24 年 5 月 8 日の調査では 10 種 172 個体が確認され、個体数の多い上位 3 種を示すとハマシギ 98 個体、キョウジョシギ 39 個、キアシシギ 13 個体であった。今回、平成 25 年 5 月 8 日の調査では 9 種 35 個体が確認され、個体数の多い上位 3 種はシロチドリ 13 個体、キアシシギ 6 個体、キョウジョシギ 5 個体であった。シギ・チドリ類の餌場となる干潟を持つ葛西人工渚と森ヶ崎の鼻について、調査時の干潟の干出面積は広がった。調査員が葛西人工渚に上陸時に飛び立つシギ・チドリ類の群れは無かった。ワシタカ類の飛来も確認されなかった。これらの事から、葛西人工渚と森ヶ崎の鼻の調査を行った時間帯は、近隣の他の干潟も出現しており、それらの調査地以外の近隣の干潟(東京港野鳥公園、谷津干潟、三番瀬など)に多くのシギ・チドリ類が集まっていたと推測される。今回の森ヶ崎の鼻ではコアジサシが確認されなかった。森ヶ崎の鼻に隣接する東京都水再生センターの施設屋上で、コアジサシの生息環境の保全・再生事業を行う「特定非営利活動法人リトルターン・プロジェクト」の web ページの情報によると、例年 4 月 29 日が森ヶ崎でのコアジサシの初認日であるが、今年は遠くを飛翔する 2 羽を目撃、森ヶ崎上空では観察されていないと記されていた(参考文献 2)。また調査当日、移動中の船上からの観察でも、森ヶ崎の鼻周辺ではコアジサシは確認されなかった。このことから森ヶ崎の鼻周辺を利用するコアジサシは、昨年と比べて少ない傾向にあると考えられる。

その他の話題として、お台場海浜公園の第六台場、鳥の島のカワウの巣では、空になった巣が目立ち、巣に座り込む親鳥は少なかった。幼鳥が樹上や護岸で休息する姿が確認された。前回、平成 25 年 2 月 26 日の調査時と比べると、お台場海浜公園では個体数が減少し、葛西人工渚、森ヶ崎の鼻では個体数が増加している。巣立った幼鳥、繁殖を終えた親鳥が分散していると思われる。第六台場、鳥の島では婚姻色(繁殖期に現れる体色)のアオサギ、ダイサギ、コサギの姿が確認され、ササ藪の中から、首をのばすアオサギの雛が確認された。また第六台場のササ藪ではゴイサギの姿も確認されており、これらのサギ類は繁殖活動を行っていると思われる。



アジサシとコアジサシの群(葛西人工渚)
カワウ、ユリカモメと共に干潟で休息。
手前の水溜りでは、サギ類、シギ・チドリ類が採餌していた。



アオサギの雛(お台場海浜公園)
第六台場のササ藪から顔をのぞかせるアオサギの雛。
ほぼ親鳥と同じ大きさに成長している。



キアシシギとキョウジョシギ(お台場海浜公園)
人工構造物上で休息する。



ユリカモメ(森ヶ崎の鼻)
干潟で休息する。頭部が夏羽の黒になっている個体もある。



カルガモ

チュウシャクシギ

チュウシャクシギとカルガモ(森ヶ崎の鼻)

干潟で休息する。

その他にカワウ、カモメ類が休息、シロチドリ、サギ類が採餌する。

参考文献一覧

1 東京都環境局水環境課、平成 24 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月鳥類調査 速報、http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/water/tokyo_bay/attachement/H240508%E9%B3%A5%E9%A1%9E%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E9%80%9F%E5%A0%B1%EF%BC%88%E4%BF%AE%E6%AD%A3%EF%BC%89.pdf、(2013/5/11)

2 littletern、4 月 29 日(月) リトルターンのデコイ記念日、NPO 法人 リトルターン・プロジェクト、2013/4/30、<http://d.hatena.ne.jp/littletern/20130430/1367330309>、(2013/5/11)